

徳泉寺報

No.004

発行
平成30年2月

発行元 徳泉寺

仙台市宮城野区
榴岡 3-10-3

(022) 297-4248

例年になく多くの雪に見舞われたこの冬。

三日連続の雪かきにへとへとになり、豪雪地帯に住んでいらっしゃる方たちの御苦労をしみじみと感じました。しかし、出勤時の会社員の方からご挨拶いただいたり、子ども達のはしやぎながら登校する様子を目の当たりにしたり、わざわざ雪かきのお手伝いに来てくださった方の温かさに触れたり。いつもと違う風景にいつもと違う感動もありました。

ボランティア報告



雪の徳泉寺

東日本大震災を機に、私たちは住職を中心に被災地に寄り添う活動を続けています。震災直後には仮埋葬の際の勤行やお葬儀のお手伝い。避難所ではお風呂の仮設、物資の運搬や炊き出しなど。仮設住宅ができてからは心のケアも含めて一緒にお念珠を作ったりお祭りの運営を手伝ったり。長期休暇には福島の子ども達と長期合宿に出かけたりも。思い返してみると、その時その時で志を同じくした周りの方たちと協力しながら、数多くの支援を行ってきました。もちろんこの活動を継続するには、家族やご門徒の皆様のご理解があり、周りの環境がそのことを可能にしてくれたのだと感謝しています。

まもなく七年を迎えますが、今もなお、あの時から続くご縁を大切に、必要とされる声にできる限り応えていきたいと考えています。

二月十一日 災害公営住宅へ行ってきました

二月十一日(日) 京都の大谷大学の職員と学生さんたちが災害支援ボランティア活動として炊き出しとミニ縁日を行いました。場所は今泉インターにほど近い久保田東集会所。ニッペリアの仮設住宅にいた方達の多くがこの近辺の公営住宅などにお住まいで、大谷大学のボランティアは定期的にこちらを訪問しています。

この日は餅つきや粕汁などの炊き出しと子ども向けのミニ縁日。ゲームをしたりボール遊びをしたり。大人はおしやべりや念珠作りでゆったりした時間を過ごしました。新しい地域コミュニティができたばかりのこの地区では異世代間交流がまだまだ難しいのが課題だとおっしゃっていましたが、赤ちゃんから大学生、八十歳代まで多くの方が訪れてにぎやかでした。

焼き鳥を焼いたのですが、風が強くて大変でした。震災から約七年。復興のためにも、このような機会に笑顔を届けていきたいと思いました。

(AYA 中)



大学生がんばる



うでわ念珠作り



餅つきぱったん